（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフノルトくさなぎ支援教室			
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日		～	令和8年3月20日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	14	（回答者数）	9
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～	令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は、福祉サービスを提供するための環境整備が徹底されている点が大きな強みである。 具体的には、安全面への配慮として、壁面をマグネット仕様とし画びょう等を使用しない工夫、床にはクッション材を使用したフローリング構造、出入口には児童の飛び出し防止のための施錠管理、棚の高さを大人基準に設定するなど、事故防止を前提とした設計となっている。	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行うため、個別支援計画に基づいた支援を実施し、日々の記録やミーティングを通じて職員間で情報共有を行っている。	専門的カリキュラムと個別支援計画との連動を強化し、支援の目的や効果がより明確になるよう取り組んでいく。
2	専門的支援の充実として、外部専門職を活用したプログラム（和太鼓、言語聴覚士による言語訓練、英会話教室）を実施しており、児童の多様な発達ニーズに対応できる体制を整えている。	安全管理については環境面だけでなく、職員の見守り体制や声かけを徹底し、事故防止に努めている。	職員の専門性向上を図るため、研修機会の充実や外部専門職との連携強化を進め、支援の質のさらなる向上を目指す。
3	個別支援計画に基づいた支援を行い、職員間での情報共有を徹底することで、支援の統一性と継続性を確保している。	専門的カリキュラムについては外部講師と連携しながら継続的に実施し、児童の興味関心や能力に応じた多様な支援機会の提供を行っている。	保護者へのフィードバックや情報共有の充実を図り、家庭と連携した支援体制の強化を行う。さらに、ICTの活用や業務効率化を進めることで、職員が支援により集中できる環境整備を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全面を最優先とした運営を行っている一方で、課外活動の実施が十分に行えておらず、活動内容が事業所内中心となっている点が課題である。	安全確保を最優先とする運営方針のもと、リスク回避の意識が強く、結果として活動の幅を狭めてしまっていることが要因の一つと考えられる。	課外活動の実施に向けて、リスクアセスメントを行い、安全を確保した上で段階的に活動範囲を広げていく。 また、送迎体制の強化として、送迎ルートの整理、マニュアル整備、同乗研修やOJTの実施により、職員の対応力向上を図る。
2	安全確保への配慮から活動範囲を限定していることにより、児童の社会経験や外部との関わりの機会が十分に提供できていない状況がある。	送迎に関しては職員の経験やスキルの差、運行ルールの明確化不足などにより、安全面への不安が活動制限につながっている。	課外活動時の運営基準（人員配置・役割分担・緊急時対応フロー）を明確化し、職員全体で共有することで、安全性と活動の幅の両立を図る。
3	送迎体制についても経験や運用面での課題があり、送迎可能範囲を限定していることから、利用機会や活動の幅に影響を与えている。	課外活動における事前準備やリスク管理体制（人員配置・役割分担・緊急時対応等）が十分に整備されていないことも要因である。	外部専門職による支援内容を職員へフィードバックし、日常支援へ活かす仕組みを構築するとともに、内部研修やケース検討を通じて支援の質の均一化を図る。